

2013年10月に行った講演についての謝罪

2018年3月1日

私が2013年10月21日に「からつ塾」にて講演させて頂いた「尊厳死法と事前指示は平穏死を保障するか」について、児玉真美先生より、ご著書に対する著作権侵害との抗議を受けました。

この講演のなかで、オランダやベルギー等の実情、およびメアリー・ウォーノックの認知症の方についての発言などの紹介のなかで、児玉真美先生のご著書『死の自己決定権のゆくえ』（大月書店、2013年）から多くの情報を使わせて頂きました。もとより盗用する意図はなく、スライドにも著者名、書名を明記させて頂きましたが、その出典表示が十分ではありませんでした。

例えば、スライド4枚にわたって、オランダ、ベルギーの実情を児玉真美先生のご著書をもとに話をさせて頂いたところでは、引用が始まる一つ前のスライドに著書名をあげていますが、それがどこから、どこまでの指示か不明です。口頭でも、「これからお話する……の実情については、児玉真美先生のご著書『死の自己決定権のゆくえ』から引用しながら紹介させて頂きます」と前置きすれば、よかったと反省しています。

パワー・ポイントでは、行頭記号「・」のあとに箇条書きで項目が並べられますが、1枚のスライドに数項目をあげ、そのすべてを児玉真美先生のご著書からの引用であることを表示すべきところ、最後の項目のうしろにのみ、例えば「(児玉 45-46 頁)」という出典表示になっていて、最後の項目のみが引用であるかの印象を与えてしまいました。数項目がすべて引用の場合は、スライドに別枠でそれを表示するなどの方法をとるべきでした。今後は、その点に注意して出典を表示するようにしてまいります。

「欧米の実情」をまとめたスライドと、リヴァプール・ケア・パスウェイ (LCP) に言及したところでは、出典表示がまったく欠落していました。この点の不注意については深く反省し、児玉真美先生に心からお詫び申し上げます。

学会発表や論文執筆等では、出典表示には注意を払っているつもりですが、市民向けの講演では、文献や情報源よりも、話の内容そのものに関心をもたれると考え、出典表示が雑になったり、一部欠落したものとなりました。今後は一般の講演におきましても、教えて頂いた情報や文献に敬意を払い、正確に示すように心がけてまいります。

児玉真美先生には、ご自身が苦勞して情報を収集し、翻訳され、その背景も分析した上で、鋭く的確な分析をされてこられたのに、その学術的な苦勞と意義に敬意を示すことなく、あたかも講師みずからが調べたかのような印象の話となったことに対して、大変不快な思いされたことと思い、大変申し訳なく思っております。心から深くお詫び申し上げます。

松田純